

「消化器疾患のダイナミック CT 診断」

千葉大学教授 磯 野 可 一 監修

千葉大学第2外科 竜 崇 正 著

奈良県立医科大学教授

打 田 日出夫

CTは消化器疾患の診断にとって非常に有用な検索法であることが定着し、CTなくしては医学の進歩に即応した診療が不可能になったと言っても過言ではない。しかし、CTも検査方法が不適切で、精度の低い診断で終われば、病変の拾い上げ診断のみでなく、質的診断と進展度診断における誤診の増加が危惧される。CTの特徴を最大限に發揮してCT診断の精度を高めるには、造影剤をいかに有効に使用して検査を行うかがポイントになり、ダイナミックCTの活用が必須である。

著者の竜崇正博士は、消化器の画像診断に情熱を持ち、特にCTに関する新しい知見を盛り込んだ研究を続けてきた新進気鋭の外科医である。本書は日常診療の中から得られたCTに関する臨床研究成果の集大成であると共に、消化器疾患CT診断の実際的な指針となる成書でもあ

り、著者の熱意が伝わってくる力作である。序文の中で“CTは消化器疾患において、一般的検査法として広く定着した感がある。しかし、CTの能力を十分生かした診断がなされているとは言えないのが現状である。単純CTのみでは診断上の限界があり、……ダイナミックスキャンの機能をよく理解し、目的に応じた造影剤の投与法を組み合わせることにより、CTの非侵襲性の特徴を生かした詳細な診断が可能になる”と述べられているが、本書の意図と特色を端的に表した言葉である。

本書は、X線CTの基礎、ダイナミックCT検査の注意事項、方法および画像の特徴に関して、要点を実際的に記述しており、ダイナミックCTの方法をサーキュレーションスタディ、late stage CT、slow injection CTに3大別して、各々の造影剤注入法とスキャン方法がわかりや

すく解説されている。更に各領域・臓器ごとに、検査手技、適応・目的、ダイナミックCTとCT像などの要点を解説した後、理解を深めるための適切な代表症例が呈示されている。各症例にはUSや血管造影などのCT以外の画像と説明も適宜に載せられており、総合画像診断の立場からもCTの適応と診断的意義が習得できる。また、ポイントを得たシェーマや矢印による説明が付けられており、初心者にも理解しやすい。

外科医として多忙であるにもかかわらず、画像診断にも造詣が深い著者が、誠心誠意、熱意と真心をもって各症例のCT診断に当たっておられる姿勢が感じられる。また、画質もすばらしく、写真のトリミングと配列にも木目の細かさがにじみ出ており、ハンディーであるが最高級に属する画像診断書である。

消化器領域を専門とする医師は当然のこと、一般放射線科医、内科医、外科医も一読する価値があり、また、CT検査に直接に関与する放射線技師にも診療の場で参考になる良書として推薦する。

B5判 222頁 図162 写真835
1986 ¥6,400 円300

医学書院 刊